国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥ニ-41

結城合戦繪巻

亥二
41

亥二
41

国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』　請求記号 亥二-41

帝國圖書館藏

萬倉夜乃宮男二男の川らきうへ子其里度

国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』　請求記号　亥二-41

帝國圖書館藏

鎌倉殿乃御曹司のいつゝきうへに春王殿
安王殿とて 兄弟二人御しのひめされと
かくしてしもつけの國へおちさせまいり
日光山の衆徒をたのみて まかせ給ひて
まつりありしに御家人にまかれて しのひ給ふ
御ことはりしに 御所の御ちかなきへは
一寺の衆あつひ かの山の者 くいん之君
まちさは申ありける志つけひさの國の住人
ゆふきの七郎はなしとうけたまはりて 譜代の
御主なれは己か城に入まゐらせてまつりけいことを
かくして此事二大事におよひけれは
京都よりも又御勢ともをさしくたされけれ
さる城ハ二方に大河ありて 四方に堀あり
又堀すいりを きいめせい水をたくへいとま
あかりけるかきりなし 三年よ父来

国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥二-41

日光山の衆徒とゐのこて　ききめ勢中ゐて
まうまゐり色ゝ姿人々まゐれとも　なかなか称まて
ゆくゑましく侍らを　詩歌管絃の遊なとにてはへは
一寺のてらあいのみ山の　ありさまくはんさい君
まことしおはしましける折ふし那須の國の住人
此さきの七郎はよしたと云ける者ありて讃岐の
ほうきまうして入道まてまいりけることと
ゆくゑ中そり此事一大事に思ひなけれは
られ候らんりとをさいめせいしやとをもうつしこまるを
京都より又御教書をたまはりしかは思ひあり
きさ城は二十あまり大河あふれて留守にかたき
あまのうへのさりまし三年よ又上年の
為いふてかくにとしらへい　しゆかたへの
波泰の姫君事如んなく高野に織乃
つかちをは十余丈つかせ　要の宮をかきを
建しそこれにすまけしとを　わたり　此城には
なつちまけきは高ゐなし　堀るあつるゆへ
きれ七ふをはしめとして　たん金いをあさむき
ちやりよとうし　国程の富士十余様かへと
きりてそなかりけり　日本一の城りをふ神乃
まくなるあらん　武者なかりけるつかちさく物と
あへりし横なそなりけれ　あかつきなる京々る見
勢けせあつかる事　もとにめともみのよし
日本弱当の合戦をと緑山のいさきよも
あつりとしくとも一ちんに立とぬるきはさんとうある
ゆくさる源氏やありけんつかる　城中はうほりを
諸寺の通路をとゝめられ　兵粮つきてそみて

国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』　請求記号　亥二-41

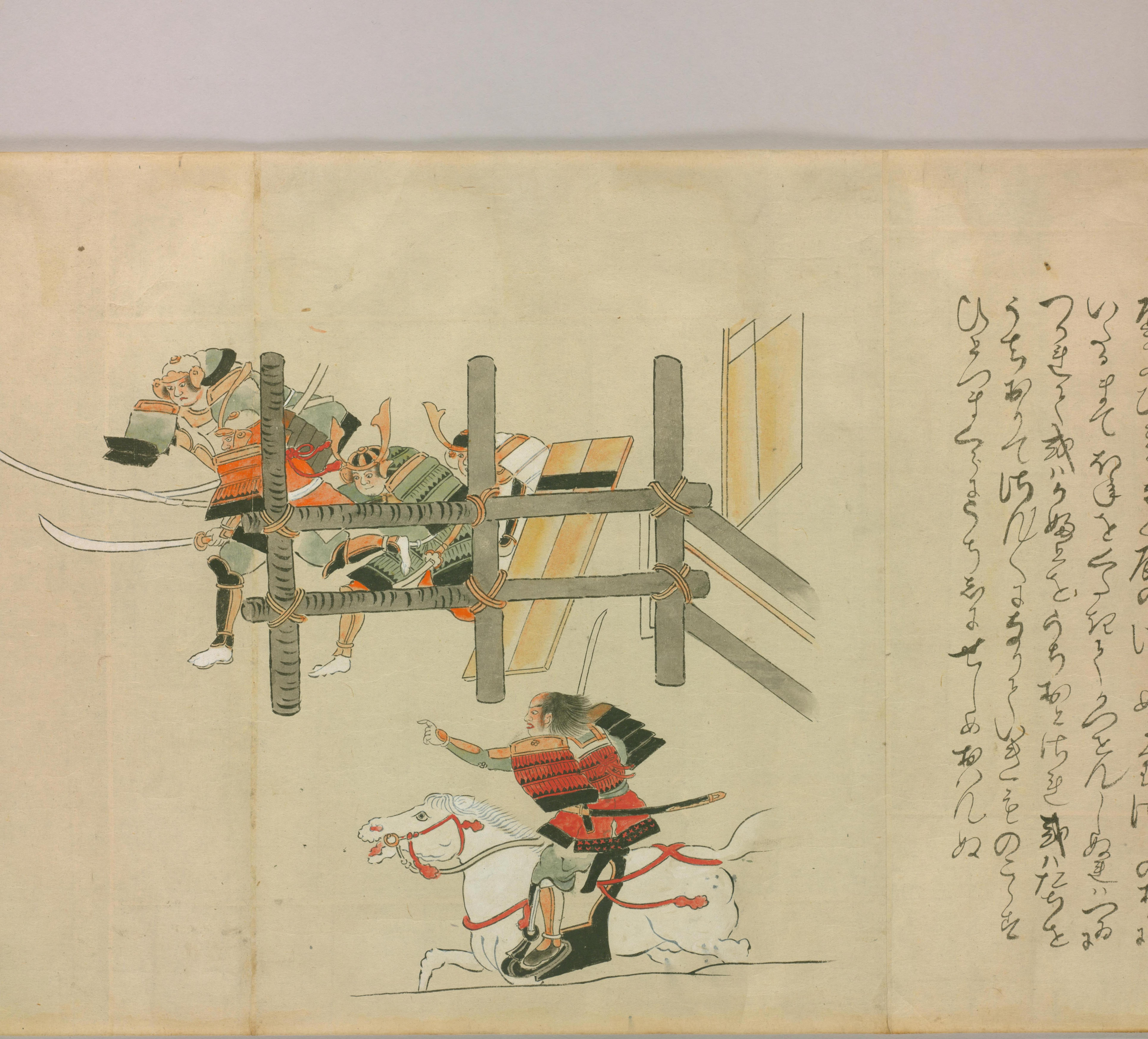
彼泰の姫君帝如ん為く宗ゟ扣いゟく織乃
ついちを只十余丈ついて堀の底ひを姑を
廻しそこれまてすきしとを扣わし此城ハ
たやすくおちけきハ為しかるをも此るあちる由
きこえしかとをはしめとしてたん名いをあきらき
ちやうらうとうしる様の御曹士一千余騎扣わひ
きりてをおりけ尋日本一の城りをふ神乃
ごくなるあら武者おりけるつるうちらく扣を
よ人も横おそなかりけり志つらゐて京々の北
勢けせあつまる事雲みのことくかさみのまし
日本雅曽の合戦をこ存山のいくさにもまされり
志ありとしくとも一ちん破ものいまたはさん先ちゝまろく
めゝきる勇猛もやありけんつゐるに城兵ハ合戦のすえに
諸方の通路をとゝめ兵粮つきてそみて
いまはおきもりてや御ひけん嘉吉元年四月十六日
の夜をもつてしゆくきの七郎よせてをむかへつゝ中
あらハよれてハおほせまてはらをきらん事なとを
さこすへうらそあさふ城のうちに女房たち十よ
人おわりけり害せん事をいはふひんなり
みな中にはなさけをもてれうとおもうし
つゝハ本世まて情をいをつけさせくしとひけきハ
城様一きのちん中よりまとおりとえ方る卯花おもと
しのよろひよおるしけ乃あわとのをとしめ
たちきなきもちさる武者一きあそくみいて
いそけるは自余のはらをやられて女房達
乃かたハおくれやなく扣をしまちをまつ見と
こそくけきハ申くき大よ暁らしこそ七八人よ

きこすへうしそ大将小城のうちに女房とも十よ
人ありけり害せん事をいふひんちうに思
ひて中にはなさけをもてくれくとおもひし女
房は来世まて浄土へと見しとひけるは
越後一きのちん中よりおりをえたる卯花なと
しのよろひにおもしけれはあるとのをとしめ
大将なれともちからおよはす武者一きあまくみいてゝ
いさけるは自身にははらをきられて女房達
乃中にはおほく候なりと申しすてまつりしと
こそ人けれは申しけれは大将によりてこし七八に
女房とのせんき申につけて二人を女子の様に
いてくるせめてまつりて敵陣の中をとほして
わたしけるかかるにのせてのいくさ場へおとしけいて
大将一ゆふにかしけれは此女房としのかたに
ゆさめらく申とはある也いけとりましし
申そえてまつるとてうたせけるをとらせめくりてこそ
ふきてうちけるつれなとはこれをきゝやうまれさる
むしを一ころになりしみけるを中将とのこしに
わかし十二のはりちるひめきみ二人あひまし次
をれかけすこしかたく給ふことを おもひ知とゆくに
みへあひしを祢んきいと いやしくてこより
とりくひきおもくまつりけるをいとの
おしより絶のこれめ房の聞けるか此世をみて
こしよりあらひおもひてさきはいちかゆるや
まるきみそては此世をとちんけきとも
とらちんをふありとて思ひていけとりまし
まつりて大将の中にそれとりまし中けるゆめの

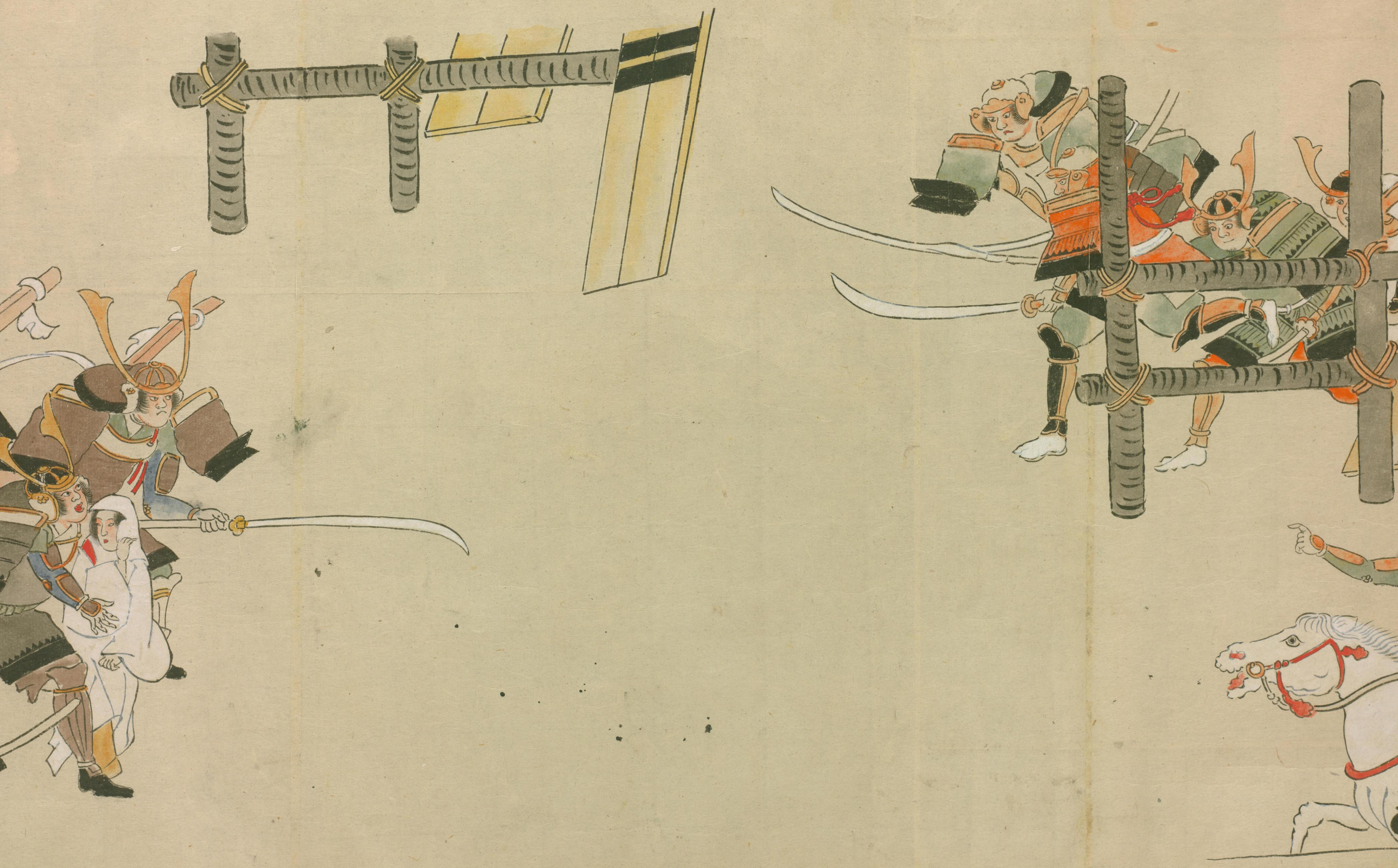
申さてまつりとて高名せすまゐらせめくりてそ
ふきこうりけるつゐにおもうるこれをきくやまれ候と
おしを一ころは汚らしみけるまに中なとのことは
なきし十二三はかりなるひめきみ二人おはします次
みへなひしを祈んきいやとはやしきてこよ
とりてひきもちしまつりけるをはせの
おしはれのされめ度のまけるか此由をみて
こしまきあひもちて申さはいかなるめてたき
まちきみそては此をとちんけりとて
とらちんをふあらして隆てけりぬ
まつき大勢の中すそ思りとしやけるは
すより けきしとみさてまつるさては汚らん
めひつきなひきりとて申さるをはしめとし
おとりけるつれとのとも城のきとと申しひきて
うちとのくまつきなとまさの人て申もと
其そ大室いの中なまつく入るひらしとも
あへと残りわより面へまけてかくまてなくは
すか字とい申おりきんくまきりめくらせ
又はなるせいちまはいてを、へくつきん
そと入けきとも申きるせいいまそと汚く
随其ひまま多く度のは申すま汚のおりは
いるまて程をそてかくらとんしぬ透はつ福は
つきてそ或はうたとうちおと汚き郷ハたちと
うちおりて汚んくはものうしいきこそのことを
ひとつまくてまうちちきにせしめおりんぬ

国立国会図書館　　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥二-41

国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥二-41



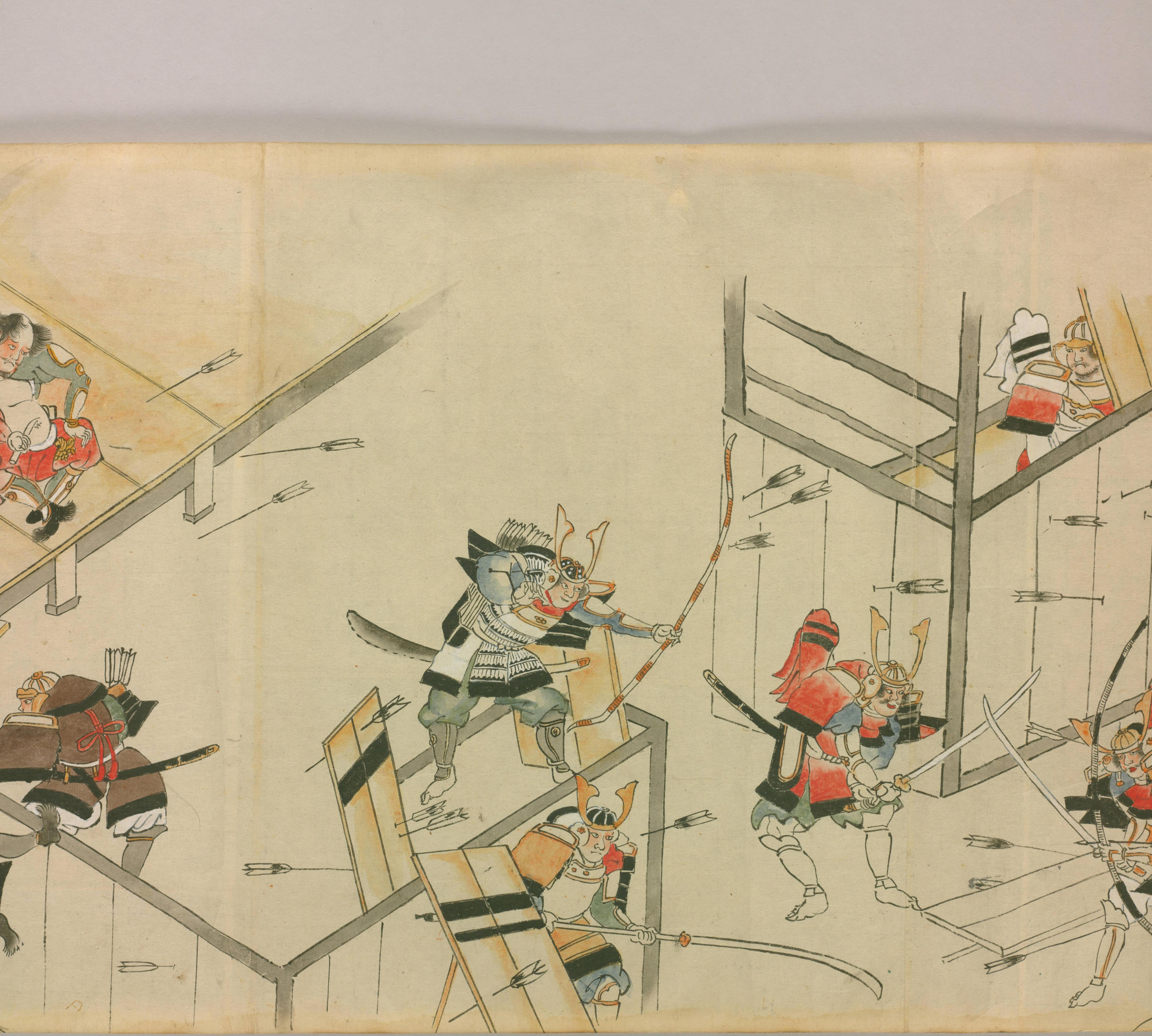
国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥二-41



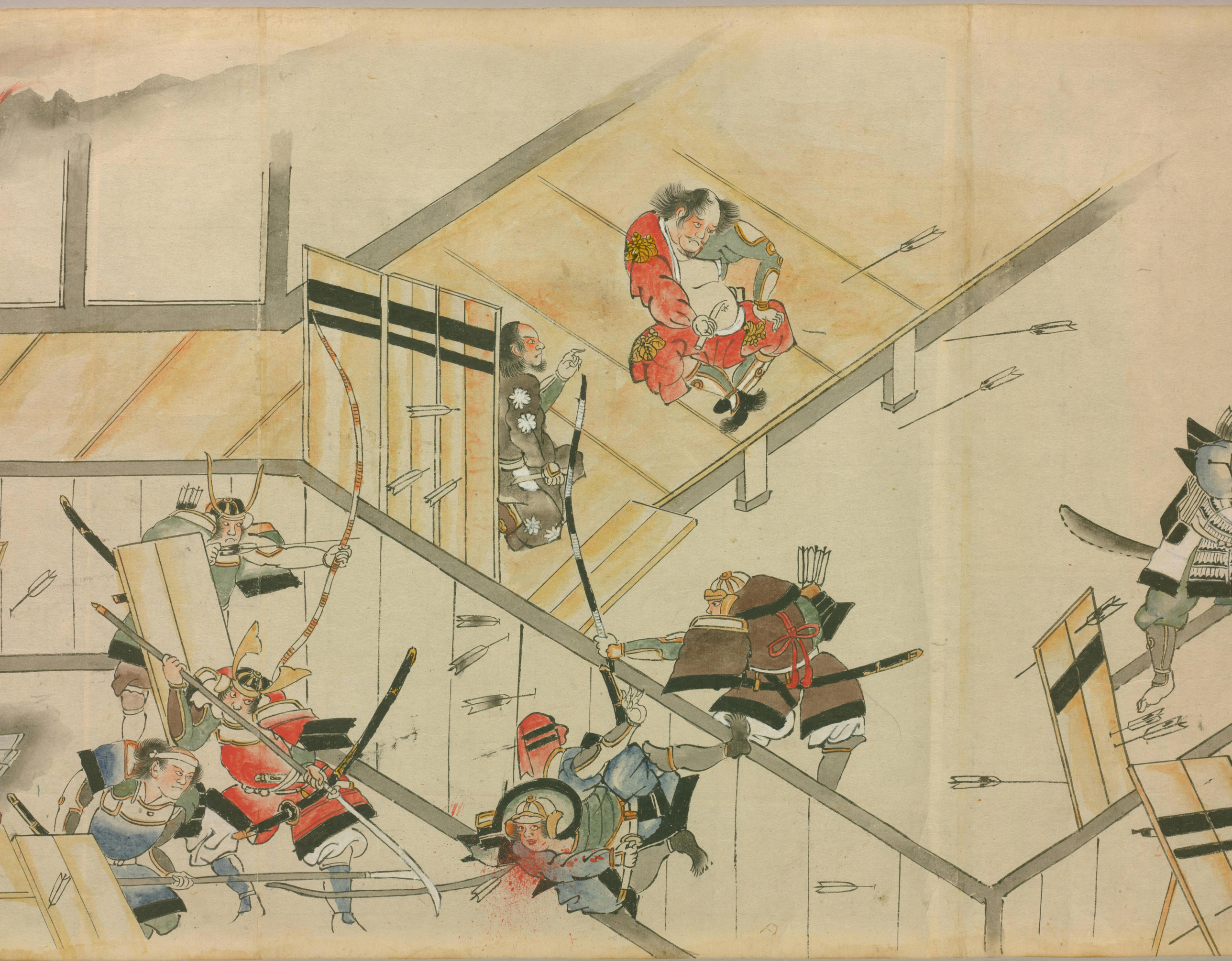
国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥二-41

国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥二-41

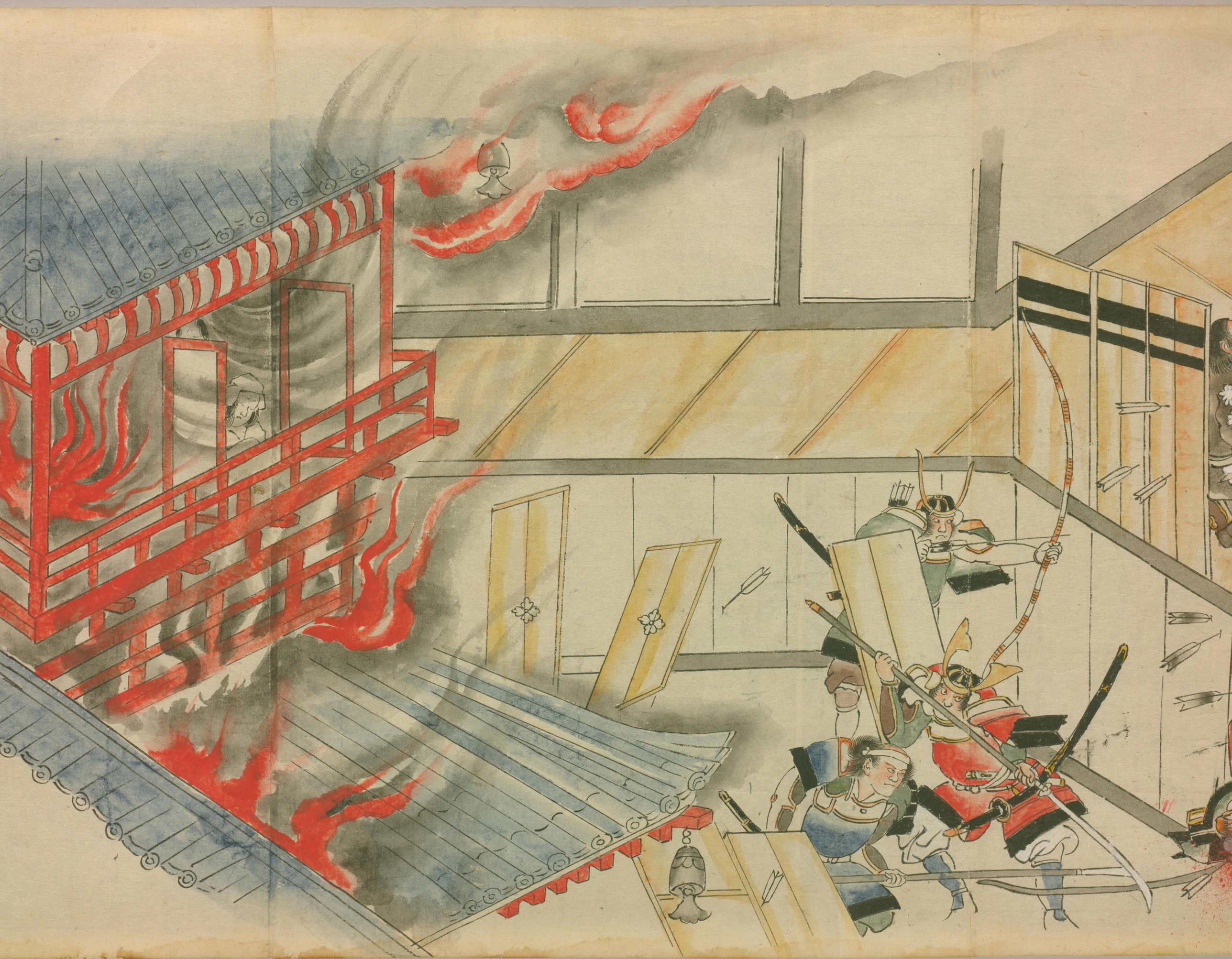
国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥二-41



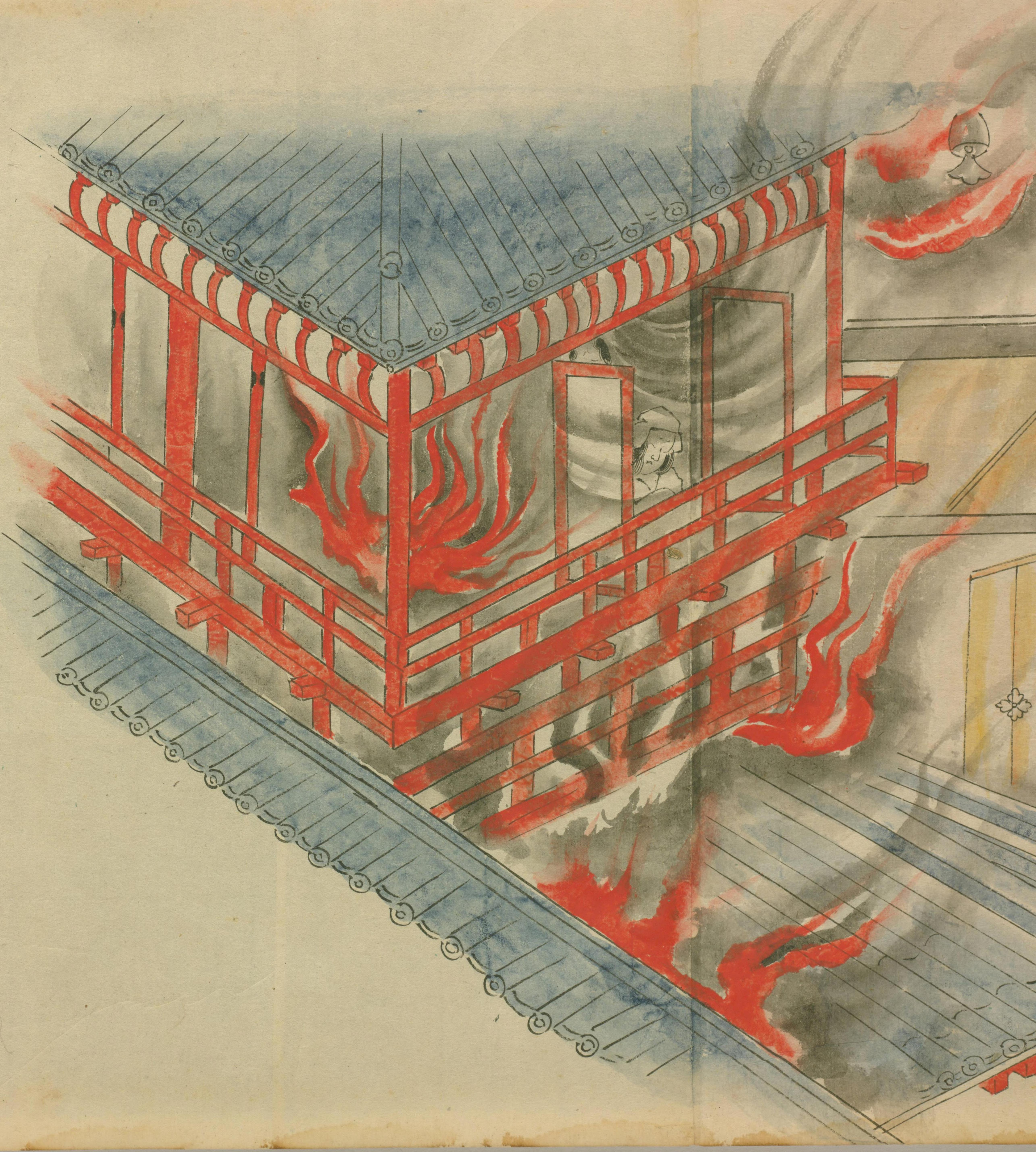
国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥二-41



国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥二-41



国立国会図書館　タイトル『結城合戦絵巻』 請求記号 亥二-41



右結城合戦乃繪巻也同僚河田氏所蔵の本往以くすゑ
うつしゝを写しぬ繪の綵色をもはぶき略する所もあり
詞乃文字もさまでうすく有りしかば所をかり紙を悉く
始めよりいかなる人の手にしや詳ならず繪ハ土佐の中
修へされとたしかなる次第のしるし也の前を後とあり
流しらんとわり同紙ひらせて今ハたゞ一巻にと残せる
あるべし

明和五年戊子十一月七日

伊勢平藏貞丈記

行齢四拾六歳

国立国会図書館　　タイトル『結城合戦絵巻』　請求記号　亥二-41

右結城合戦乃繪巻者同僚河田氏所蔵の本借りてすゑ
うつしおきしぬ繪の綵色をもけうがる所もあり
詞乃文字もまゝうすくなりたる所をかり紙を悪く
如きひとりいかなる人の手にしや詳ならず繪は土佐の中
條とされたれどもたしかならず次第のしき此巻の前を後をあり
なくみ見聞くひらきせて今はこの一巻のみ残れる
なるべし

明和五年戊子十一月七日　伊勢平藏貞丈記

天保三年壬辰三月朔日　行齢四拾六歳　河野共七郎越智宣澄

同六年乙未年十二月七日　亦又写　鈴木虎吉